https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

薬物療法

版 2016

2. シクロスポリンA

2.1 性状

シクロスポリンAは免疫抑制薬であり、当初移植手術を受けた患者の拒否反応を予防するために使用されましたが、今では小児リウマチ性疾患に対しても使用されています。本薬は免疫反応において基本的な役割を果たす一群の白血球に対する強力な阻害薬です。

2.2 投与量、投与方法

シクロスポリンAは液剤または錠剤の形で1日量3 - 5 mg/kgを1日2回投与します。

2.3 副作用

副作用の頻度は特に高用量で高く、その使用を制限することもあります。副作用には腎障害、高血圧、肝障害、歯肉増殖、多毛症、嘔気・嘔吐などがあります。
したがって、シクロスポリンによる治療では定期的な検診や臨床検査が必要となります。小児は自宅で定期的に血圧を測定する必要があります*。 *日本では義務づけられてはいません。

2.4 主要な小児リウマチ性疾患適応症

マクロファージ活性化症候群* *日本では保険適応は得られていません。

若年性皮膚筋炎* *日本では保険適応は得られていません。